

2023 年度 棚田学会大会シンポジウム

棚田地域への移住・定住の試み

—地域おこし協力隊の活躍とアフターコロナにおける棚田の未来—

2023・8・26 土 13:30 - 17:00

会場：東京大学農学部 中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生 1-1-1）

参加費無料（要申し込み：裏面参照、WEB 参加可、会員外参加可）

棚田の減少が著しい。中山間地域等直接支払制度、棚田地域振興法などの施策がさまざまに講じられているが、それを上回る速度で棚田が失われている。過疎高齢化による担い手不足は深刻であり、そのためにも外からの支援が求められるが、棚田は日常的な管理を伴うため、定住して守ることが必要である。コロナ禍の後押しもあって、地方移住の希望者は増えているものの、棚田保全に関わろうとする人はそれほど多くはない。

それでは現在、どのような人材が移住して棚田を守っているのだろうか。地域は、自治体はどんな支援をすべきなのだろうか。移住・定住問題に取り組む研究者を基調講演に迎え、全国各地の移住者や地域おこし協力隊の活躍事例（失敗や反省を含む）などをもとに棚田地域の未来につながる議論としたい。

●プログラム

◇ 棚田学会賞受賞者講演（12:50-13:20）シンポジウムに先立ち行います。ぜひこちらにもご参加ください。

1. シンポジウム開会挨拶 / 山路 永司（棚田学会会長 東京大学 名誉教授）
2. 本シンポジウムの趣旨説明 / 菊地 稚奈（棚田学会研究委員 九州大学総合研究博物館 専門研究員）
3. 基調講演 “田園回帰” 時代の地域づくり—棚田地域が切り拓く可能性
/ 関司 直也：法政大学 現代福祉学部 教授
4. 事例報告
 - ① 農村文化の担い手としての移住者
/ 嵩 和雄：國學院大學観光まちづくり学部観光まちづくり学科 准教授
 - ② 棚田保全の世代交代
/ 多田 朋孔：特定非営利活動法人地域おこし 代表理事
 - ③ うきは市における棚田保全および移住促進の取り組み
/ 佐々木 理沙：うきは市役所うきはブランド推進課地域振興係 係長
5. 総合討論（パネリスト：基調講演者、事例報告者）
司会：小谷あゆみ：棚田学会研究委員（農ジャーナリスト）
6. 総括および閉会挨拶 / 上野 裕治（棚田学会理事・研究委員長）
（終了後、交流会を予定しています。）

<主催>

棚田学会

<後援>

農林水産省

一般社団法人
地域環境資源センター

講演者、報告者のプロフィール



図司 直也（ずしなおや） 法政大学現代福祉学部 教授

1975年愛媛県生まれ。東京大学農学部を卒業し、東京大学大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻に学ぶ。2005年に同研究科博士課程を単位取得退学。博士（農学）。財団法人日本農業研究所研究員、法政大学現代福祉学部専任講師、准教授を経て、2016年より現職。中山間地域等直接支払制度に関する第三者委員会委員長、(財)地域活性化センター・地域リーダー養成塾主任講師等、地域振興・人材育成に関するアドバイザーを歴任。専門分野は、農山村政策論、地域資源管理論。主な著書は、『就村からなりわい就農へ』（筑波書房）、『地域サポート人材による農山村再生』（筑波書房）、『内発的農村発展論』（共著：農林統計出版）など。



嵩 和雄（かさみかずお） 國學院大學観光まちづくり学部 准教授

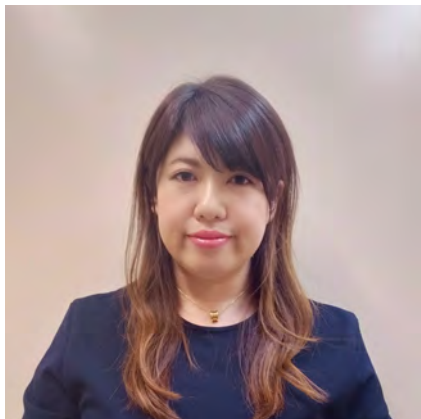
2001年大学在学中に熊本県小国町に移住。(財)阿蘇地域振興デザインセンター、(財)学びやの里で九州ツーリズム大学や廃線跡活用プロジェクト等都市農村交流事業等、観光まちづくりや人材育成に携わる。2009年から東京にUターンし、NPO法人ふるさと回帰支援センター副事務局長として地方移住支援に携わる。2021年より國學院大學研究開発推進機構准教授、2022年4月より現職。専門は都市農村交流、地方移住、地方政策など。



多田 朋孔（ただともよし） 特定非営利活動法人地域おこし 代表理事

第44代京都大学応援団長、京都大学文学部卒業後会社員となる。リーマンショックを機に、長い目で見たら自分で将来食べ物を作れるようになるべきだと思ふようになり、2010年に当時6世帯13名の限界集落だった池谷集落に家族で移住。自身でも米、野菜を生産・販売しながら地域おこしに取り組む。応援団仕込みの理不尽に耐える忍耐力と、会社員時代に習得したビジネスの考え方、農業で培った泥臭い現場主義の実行力を活かして地域おこしを進めた結果、池谷集落は限界集落から脱却し、「奇跡の集落」と呼ばれるようになる。

著書は『奇跡の集落～廃村寸前「限界集落」からの再生』



佐々木 理沙（ささきりさ） うきは市役所うきはブランド推進課地域振興係 係長
福岡県久留米市出身。熊本大学理学部環境理学科卒。

2005年に旧吉井町役場入庁。その後浮羽町と吉井町が合併し、うきは市となる。2018年に地域振興係に異動後、山間部の地域資源を生かした森林セラピー事業やつづら棚田での棚田オーナー制度、棚田まなび隊の支援などに関わる。2021年から同係で半農半X事業にも取組はじめ、中山間地域で農ある暮らしをしたい移住者支援を行っており、農業の視点からだけでなく関係人口を含め棚田の景観保全につながる活動を模索している。

〈申し込み〉

参加希望の方は下記URL、右のQRコード、もしくはFAX、郵便にて必要事項を記入し返信して下さい。

<https://forms.gle/BvuyvmdtPeRjyTEM6>

お問い合わせ: tanada.ac@gmail.com

申し込み締切: 8月5日(土)



FAX (042-385-1180)、および郵便(〒184-0015 東京都小金井市貫井北町1-14-5-101 ふるきやら内 棚田学会)で申込みの時は、以下の項目をご連絡下さい。
氏名 メールアドレス 住所 電話番号
会員・非会員 所属 交流会参加希望有・無

参加申し込みの個人情報はシンポジウムの連絡以外には使用いたしません。